

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|-----------|------------|
| 事業所番号 | 2470400132 | | |
| 法人名 | 有限会社 花しょうぶ苑 | | |
| 事業所名 | グループホーム 花しょうぶ苑 | | |
| 所在地 | 三重県亀山市本町1丁目2番12号 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年9月16日 | 評価結果市町提出日 | 平成27年1月23日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigvosvoCd=2470400132-00&PrefCd=24&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 三重県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 津市桜橋2丁目131 |
| 訪問調査日 | 平成 26 年 10 月 7 日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は、地域と共に《和気あいあい》をモットーに利用者に関わっている。毎月訪問の介護相談員から、「利用者や職員は日によつての格差がなく、いつ来ても笑い声が聞こえ居心地がよい」との評価をいただいている。施設は街中にあり、幼稚園・小学校・高校も近く子供たちや生徒との交流も開設以来続いている。家族や地域の方も頻りに足を運ばれ、双方が何でも話しやすい雰囲気心がけており、高齢者の情報をいただき職員が訪問することもある。地域社会との繋がりを大切に、利用者が明るく穏やかに暮らせる場所であり、子供から高齢者まで地域の人々が気軽に立ち寄れる地域のサロンの存在でありたいと願っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幼稚園・小学校・高校のすぐ近くに位置し、ゆったりとした佇まいの建物は懐かしい家並の住宅地の一角に立地し、高齢者の日々の生活の場としても恵まれた環境にある。地域福祉に篤い想いで取り組まれ、日本認知症グループホーム協会三重県支部の代表者でもある施設長のもと理念、地域と共に『和気あいあい』をベテラン管理者と全職員が共有し、その人の尊厳を守り、自己決定に基づいた暮らしの支援を行い、利用者一人ひとりに寄り添うケアを実践している。習字の得意な利用者には毎日献立表を書いてもらうなど、日々の会話を大切に支援している。昼食時、『此処の御飯は毎日美味しい!!。毎日の食事が楽しみ!!』と話された男性利用者を見守る職員の眼差しは優しく、家族からも『此処を訪問するのが楽しみ』と感謝の声が多く届いている。DCM法のマッピングを導入し、認知症になってもその人らしく、大切にされていると実感してもらえる様に、日々職員が工夫して支援している。パーソン・センタード・ケアを実践している、笑い声が絶えない地域からも大切にされている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|---|---|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 利用者が家族との関係を保ちながら地域と共に《和気あいあい》と過ごせることを理念としている。管理者や職員は利用者が明るく元気にゆったりと生活できるように日々のケアに取り組んでいる。 | 利用者には地域の一員としての役割を担いながら、日々楽しく過ごしていただきたいと、毎朝、理念と五心(1『はい』という素直な心2・・・。3・・・。4・・・。5『有難うございます』という心)を唱和して共有し、職員間の意見統一を図るようにしている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | ご近所の方が畑の野菜に水を遣ってくれたり、収穫した野菜をおすそ分けしたりしている。また隣接の小学校の授業で高齢者の話をしたり、子供たちが施設を訪問し、歌や演奏を聞かせてくれたり、一緒にゲームを楽しんだりの交流が続いている。 | 自治会に加入し、盆踊りや地域のイベントに利用者も参加している。隣接の亀山東小学校の四年生が福祉の勉強に訪問したり、亀山中学校の福祉体験などで交流している。日常的に行っている散歩や買い物時に地域の方がたと挨拶を交わすなど、近隣の人々とのつながりの機会はとても多い。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 毎年地域の中学生の福祉体験を受け入れている。また介護予防教室では元気で自分らしい生活が続けられるように健康づくりや認知症ケアの話もしており、参加者からも元気の秘訣を聞くこともあり情報交換の場にもなっている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 利用者と一緒に行事に参加してもらい、普段と違った利用者の様子を見てもらうこともある。包括支援センター、民生委員、自治会長からの情報やアドバイスをいただいたり、家族の思いなども聞きサービスの向上に役立っている。 | 2ヶ月に1回、最終の水曜日(年6回)に開催している。報告だけではなく、地域からの情報やアドバイスを多く出してもらえる様に工夫して意見交換を行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている(議事録も毎回きちんと作成されている。) | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 認定更新手続きや、介護予防教室の報告など定期的に包括支援センターに出向いている。また、入居の相談に市の担当者が訪れることもあり、情報交換ができるように心がけている。 | 亀山市からの委託の介護予防教室(月一回)の報告に包括支援センターに出かけて、担当者との交流や情報交換の機会は多くある。市職員とは常に協力関係を築くよう取り組んでいる。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 日常的に拘束をしないケアを話し合い、玄関も日中は鍵をかけていない。利用者が外に出て行く気配を察知すると職員はさりげなく付き添い不満が残らないようにしている。車椅子の方もできる限り椅子に移乗し心地よく過ごしていただけているようにしている。 | 管理者および全ての職員が身体拘束・言葉の拘束の内容とその弊害を認識し、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。玄関はいつもオープンにして利用者・家族がいつでも自由に出入り出来る様に支援している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 会議等で虐待に関する資料を用い話あっている。身体的にはもちろんのこと、言葉の暴力はないかも職員同士で注意し防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 少ない時間ではあるが、高齢者が住み慣れた場所で安心して暮らせるようにとの思いで話し合っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約前に本人や家族と何度も話し合う機会を持ち、見学時には利用者や職員と話してもらい安心して入居できるように努めている。また疑問点は納得のいくように十分に説明し契約や解約を行っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者や家族に意図的に話題を投げかけ意見や要望が引き出しやすいようにし気軽に話し合えるように心がけている。毎月訪問の介護相談員とも利用者は馴染みで何でも話し合い、要望などがあればできる限り日々のケアに反映させている。 | 花しょうぶ苑だよりを送付し、ホームを理解してもらいながら、何時でも意見を言い易い雰囲気づくりに努めている。そこから出た意見や要望はミーティングで話し合い運営やケアに活かしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 会議や日常の会話の中でも意見が引き出しやすいように心がけている。出された意見や要望はできる限り反映させて職員の働く意欲やケアの質の向上に繋がるようにしている。 | 施設長・管理者・職員とのコミュニケーションはとも良好で、日々のケアの現場などで出た意見や要望は運営に反映させている。(7月に施設長が職員個人面談も行っている。) | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年2回の賞与に過去半年間の勤務態度や実績を反映させると共に、年1回の給与水準の見直し等にも反映させ改定している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員の研修等には可能な限り交代で参加できるようにしており、費用面での援助もしている。研修後は朝礼や会議で報告しフィードバックしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 亀山市地域密着型サービス事業所連絡会主催の研修会や勉強会に参加し、サービスの質の向上が図れるように近隣のグループホーム等と情報交換を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | デイサービス利用からグループホームに入居される方もあり、職員とも馴染みで思いを伝えてもらいやすい雰囲気づくりを心がけている。また家族と何度も訪問してもらい安心して利用ができるように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族や関係者から在宅時の様子や苦労話などを聞き、本人や家族の思い、求めていることを踏まえたうえで、今後のケアについてよく話し合い家族との関係が築けるように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談時には本人や家族に思いや現状を十分に聞き、困っていることなどには全職員で対応策を考えたり、包括支援センターに相談するなど対応に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員は利用者を家族という思いの中で日頃から接している。利用者に昔の話を聞き共に泣いたり笑ったり、教えてもらうことも多々あり、時には職員にねぎらいの言葉をかけてもらったりすることもある。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族の訪問時には日頃の様子を詳しく伝え、時には家族も聞いたことがない話があって、喜んだりびっくりされることもある。外出や外泊時には本人や家族が安心して過ごせるようにケアの仕方を伝え、家での様子も詳しく聞いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 地域のまつりや行事、買い物に出かけ知人に声をかけられたり、親戚や友人の訪問で話が花が咲くこともある。外出時に家族と親戚宅を訪ねたり、行きつけの美容院に出かける方もあり、今までの関係を大切にしている。 | 馴染みの美容室に出かけたり、2ヶ月に1回地域の床屋さんの訪問がある。法事や墓参りに出かけたたり、兄弟や従妹を訪ねたり、家族との関係が途切れないような場面づくりに努めている。家族からは『家族関係が良くなった』『ホームへ何時でも訪問し易い』と感謝の言葉が多くある。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 特性や能力を活かし生活の中で役割分担ができている。利用者同士が声を掛け合ったり助けあったりの場面もあり、職員は付かず離れずずっと見守り、必要時には支援ができるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院や他施設入所後も病院や施設を訪問し、家族に近況を尋ねたり、相談に来られることもある。また行事にお誘いするなど、これまでの関係が途切れないように努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常会話から各々思いなどを把握し、表出困難な場合には日々の様子などから読み取るようにしている。家族には今までの暮らしの情報や生活歴をシートに記入してもらい、それを手がかりにその人らしさを大切に接し方をしている。 | センター方式のシートも使用しているが、夜間に眠れず話を聞いてもらいたい方とゆっくり話をしたり、話が困難な方からは表情や雰囲気から、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努め職員間で情報を共有している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人や家族などから今までの暮らしぶりや生活環境などを聞いている。時には家族も知らないことを日常の生活の中で話されることもある。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 職員は利用者の生活のリズムを把握して各々の状態に応じた過ごし方をしてもらっている。日によって状態が変化することもあるので注意深く見守っている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 利用者の思いや家族の希望、利用者の日常の様子などを基に全職員で意見交換を行い介護計画を作成している。また日々のケアの実態から計画の確認とモニタリングを行い、必要に応じて見直しを行っている。 | 日々のケアに基づいて、月1回全職員で利用者ごとに介護計画の確認とモニタリングを行っている。利用者の状態に変化が生じた際は本人・家族・関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別記録、連絡ノート、各種チェック表に日々の様子や本人の言葉などを記録し職員間で情報の共有を行い、利用者が穏やかに日々の生活が送れるように話し合いながら計画の見直しをしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人や家族の状況に応じて受診の付き添いや買い物などにその都度対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 民生委員や地域の方から情報を頂いたり、亀山大市や百円市、文化会館の催し物に招待され出かけている。出かけた先は地域との交流の場にもなり、地域と関わりながら豊かな暮らしができるように支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 協力医は利用者也親しみ信頼しており、月2回の往診以外にも随時の往診や総合病院の紹介を受けられるようになっている。また緊急時も24時間指示が受けられるようになっている。 | 利用者全員、協力医がかかりつけ医である。月2回隔週の往診と、緊急時は24時間指示を受けることができる関係を築いている。利用者一人ひとりが適切な医療を受けられるように支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 併設の居宅支援に看護経験者があり、協力医からアドバイスを受けている。看護職経験者は近くに住んでおり、夜間でも駆けつけ対応してくれている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院中は職員が何度も見舞い、主治医や家族、病院関係者などと治療経過や退院後のことを話し合い、できるだけ早期に退院できるように努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 終末期の対応方針を定め、利用開始時から事業所が対応できることなどを本人や家族に説明している。状態の変化があるごとに家族や協力医と話し合い、可能な限り希望に沿った支援ができるように職員も研修などを受け備えている。 | 利用者・家族の希望があれば、終末期に向けて本人らしく過ごしていただく方針である。状況変化に応じて現在の事業所で、出来ること出来ないことを伝えて、段階的に合意をとりながら支援している。 | 可能な限り利用者・家族の希望に添った支援が出来る様に、終末期の対応方針を定めて、新人とベテランも一緒に研修を多く行っていただくことが期待される。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 応急手当の研修を受けた職員や併設のデイサービスの看護職員などから手当ての方法など教わり、事故発生に備えている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | ご近所の方にも参加してもらい、三重県一斉防災訓練や夜間も想定した避難訓練を行っている。地震を感じた時や報道を聞き、その都度避難の仕方などの確認を行い、スムーズに避難できるように役割分担も毎朝確認している。 | 亀山消防署の協力も得て、年2回避難訓練を行っている。毎朝、役割分担を確認し、毎月、近隣にも声をかけて、夜間を想定した避難訓練も行っている。よりスムーズに避難出来る様に毎回見直している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 排泄誘導や、入浴時の言葉かけなどでも利用者の誇りやプライバシーを損ねることのないように心がけている。利用者は人生の先輩であり、親や身内と思い接するようにいつもみんな話している。 | 利用者一人ひとりの人格やプライバシーを尊重することをケアの基本としている。名前の呼び方・排泄時・入浴時・居室に入る時など、利用者の気持ちに添うように優しく支援している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | テレビや広告の写真を見たり、日々の会話の中から献立や行事を考えたりしている。意思表示が苦手な方には例を挙げて決めることができるように支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | フロアで利用者や職員と話をしたり、居室で休んだり片付け物をしたり、その日の体調や希望に応じ各々のペースで過ごしてもらっている。家族や知人の訪問で食事が遅くなることもあるが本人の思いを大切にしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 季節にそぐわない物を着ている方には職員が寄り添い支援している。開設時から来てもらっている孫のような床屋さんとも仲良しで、気に入った髪形にしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 三食とも職員手作りで野菜の準備や後片付けなどできる範囲で手伝ってもらっている。屋外でのオープンランチや流しそうめん季節を感じ楽しんで食べられる工夫をしている。 | 調理の音や匂いで五感を刺激し、旬の食材や新鮮なものをとり入れて食事が楽しみなものになるように工夫している。職員も同じテーブルと一緒に食事をしながら楽しい会話に花が咲き、和やかな食事風景である。利用者には『何食べたい?』と聞いてメニューを決めて、食欲を高めたり食事への関心を引き出す場面づくりの工夫をしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 嗜好や食事量水分量を把握し、各々の状態にあった摂り方をしている。多種類の食材を使用しバランスの摂れた献立を心がけ、見た目でも美味しく感じ、楽しんで食事できるように工夫している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食歯磨きの声掛けをし、磨き方が不十分な方には職員が介助しさっぱりしてもらっている。義歯は洗って朝まで洗浄液に浸け置き、口腔内の清潔が保たれるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 行動や表情などから尿便意を察知し、その人に合った言葉かけでトイレ誘導をしている。少しでも気持ちよく自立に向けた排泄ができるように、夜間もできる限りトイレを使用するようにしている。 | 日々の寄り添うケアから尿意のサインや一人ひとりの排泄パターンを把握して、自立排泄に向けた支援を行っている。夜間もトイレ誘導を行っている。毎日、立位の工夫や色々なトレーニングを行い、なるべくおむつをしない工夫をしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 自然な排便ができるように、毎日の体操や繊維質の多い食材は圧力鍋を使い食べやすくしている。また水分や乳製品の摂取、食事量にも配慮している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 毎日午後に入浴時間を設け、希望の時間に入浴してもらっている。菖蒲やゆず、入浴剤で季節の風呂を楽しんだり、好きな歌を歌ったりゆっくりと入浴できるようにしている。 | 入浴はローテーションを組み、不公平感が無いように工夫して入浴が楽しめるように支援している。利用者一人ひとりのこだわりにもきちんと対応し、柚子湯や菖蒲湯・・・など工夫し、支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 各々の過ごし方のペースや、体調を見ながら日中はなるべくフロアで過ごしてもらい、夜間よく眠れるように支援している。一人ひとりの生活のリズムを把握し、夜間は特にゆったりと接している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬説明は個別ファイルに綴じ、常時見られるようにしている。症状の変化や薬の変更は連絡ノートやミーティングで確実に伝わるようにし、服薬後は空袋をもらい確実に服薬できたかを確認している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 日々の生活の様子などから、家事の手伝いや書き物などの得意分野で各々が活躍できる場を作っている。役割を担うことで生き生きとされ意欲の向上にもなり、家族の喜びにもつながっている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 日光浴を兼ねたオープンランチやカフェ、菜園の世話でご近所の方と話すこともある。花見や流しそうめんは家族などの参加もあり、外で食べる食事は気分転換にもなっている。中でも誕生会で行く回転寿司は好物を食べられるとあって利用者は心待ちにしている。 | 一人ひとりの希望にそって、季節の花見や外食に出かけている。外出しにくい利用者にも戸外に出かけることができる様に、玄関先でのオープンカフェやランチは近隣の方々の参加もあり、好評である。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 恒例の亀山大市や地藏盆などで、少額のお金を持ってもらい好きな物を買われる方もあり、職員はそっと付き添い見守っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族等から誕生日などに手紙や小包が届くと、お礼や近況を知らせる手紙を書かれたり、頼みごとがあり家族に電話を希望される方もある。利用者が自分の思いを家族などに上手く伝えられるように付き添い支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者が憩うフロアーは建物の中央にあり天窓からは自然な光が差し込んでいる。壁には利用者の書道作品やみんなで出掛けた思い出の写真を貼り季節が感じられるようにしている。 | 天窓から優しい光のさしこむ共用空間には、利用者が餌をやることを楽しみにしている金魚も飼われており、季節感や生活感をとり入れて、お気に入りの場所で一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士で、ゆったりとした時間を過ごせる居場所づくりの工夫が随所にみられる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 決まった場所で過ごすことが多いが、好きな時に好きな場所で過ごせるようにフロアーの片隅にソファを置いている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 心地よく過ごしてもらえるように今まで使っていた物を持ち込んだり、家族と撮った写真や自作の作品を壁に貼っている。家族との写真や手紙を見ることで家族とのつながりが感じられるように工夫している。 | 表札の掲げられた居室はとても清潔で、家族の訪問時にもゆっくり過ごしてもらえる様に配慮し、本人の意向を確認しながら、居心地良く過ごせるように取り組んでいる。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室の入り口には表札、引き戸には色紙で作った名札を貼ってわかりやすくし、安全で快適に過ごせるように工夫している。 | | |